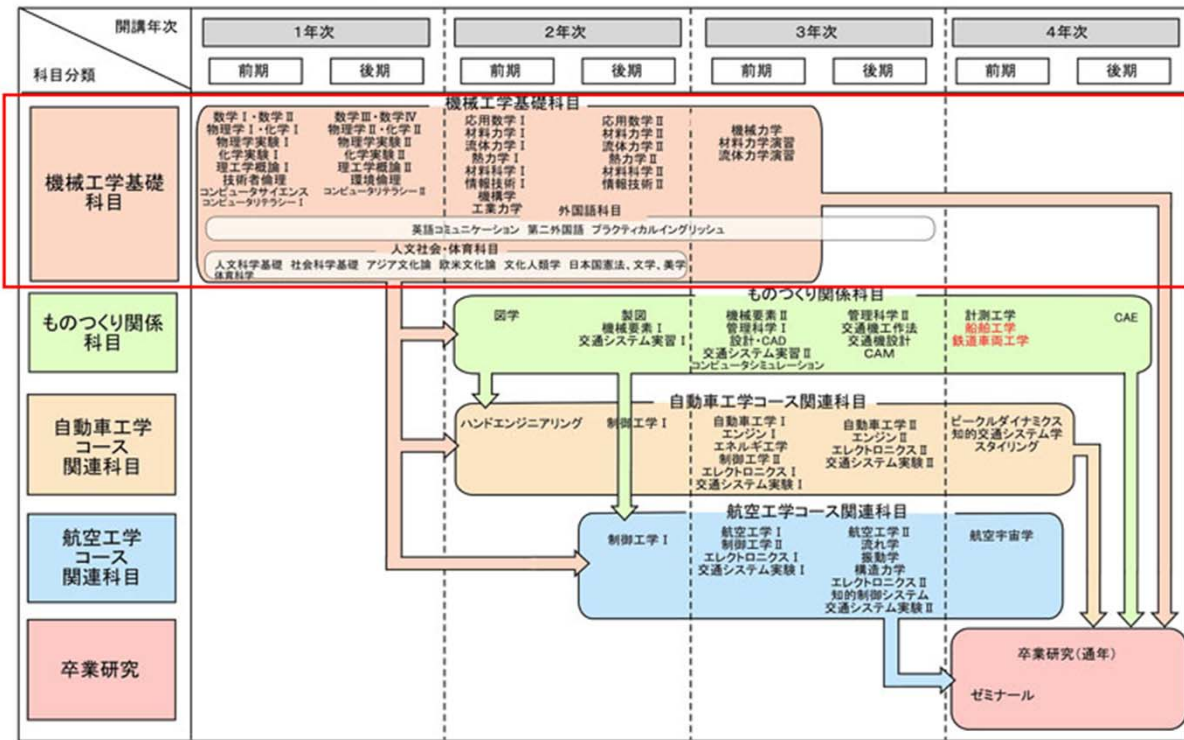


## 機械工学分野で機械技術者をめざす

自動車、航空機、鉄道車両などの交通機械と呼ばれている乗り物を通じて機械工学の基礎を習得します。教養科目での数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、物理学Ⅰ・Ⅱ、語学関係科目、人文・社会関係科目および専門基礎科目での応用数学Ⅰ・Ⅱ、工業力学、材料力学Ⅰ・Ⅱ、流体力学Ⅰ・Ⅱ、熱力学Ⅰ・Ⅱ、材料科学Ⅰ・Ⅱを十分に習得し、それらを基礎として、さらに専門応用科目を習得した後に卒業研究を習得して、大学院進学および各種の公務員（教員、警察官等を含む）として社会に貢献する職業をめざす学生のための履修モデルです。

交通機械工学科 履修モデル

### 乗り物を通して機械工学を学ぶ

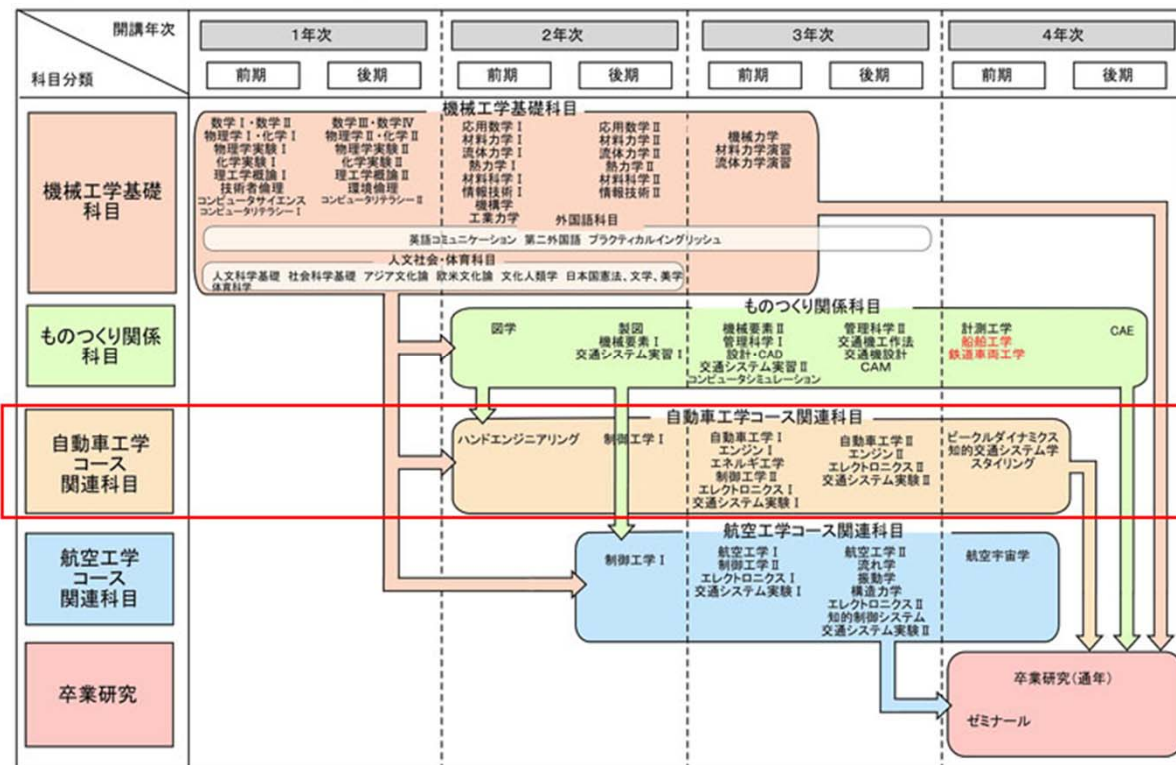


## 自動車関連分野で製品開発をめざす

教養科目に加えて美感教育科目であるハンドエンジニアリング、スタイリングおよび実技・実験科目である交通システム実験Ⅰ・Ⅱを含み、自動車関連企業で求められている知識・素養としての自動車工学Ⅰ・Ⅱ、エンジンⅠ・Ⅱ、制御工学Ⅰ・Ⅱ、エレクトロニクスⅡ、エネルギー工学、さらにビクルダイナミクス、知的交通システム学を習得します。専門応用科目を習得した後に卒業研究を習得し、自動車関連企業での製品の研究・開発および生産技術の開発・設計に貢献する職業をめざす学生のための履修モデルです。

交通機械工学科 履修モデル

乗り物を通して機械工学を学ぶ

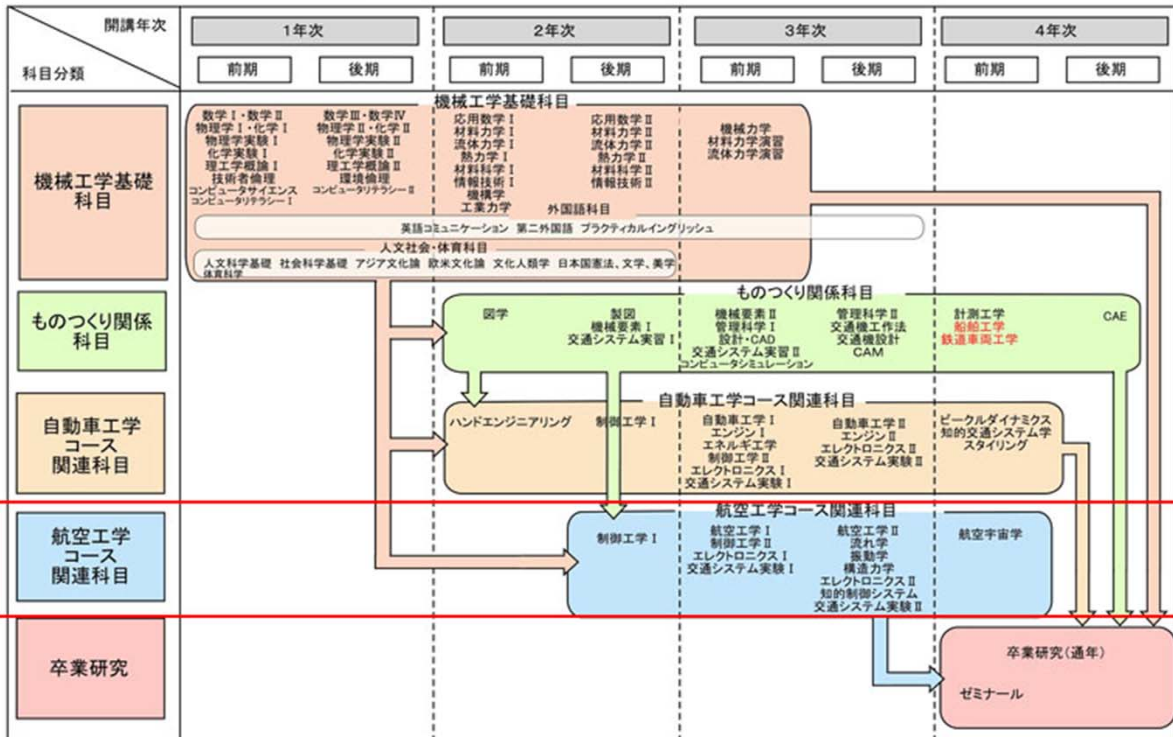


## 航空機分野で製品設計、技術者をめざす

教養科目に加えて専門科目では航空機の飛行原理、各デバイスの作用・働きおよび航空機用に特化した各種推進エンジンを航空工学Ⅰ・Ⅱで習得し、軽量構造に関して構造力学で、航空機特有の運動・操縦原理・制御・振動・流体に関する知識を制御工学Ⅰ・Ⅱ、エレクトロニクスⅠ・Ⅱ、流れ学、振動学で習得します。専門応用科目を習得した後に卒業研究を習得し、航空機関連企業での研究・開発および生産技術の開発・設計に貢献する職業をめざす学生のための履修モデルです。

交通機械工学科 履修モデル

乗り物を通して機械工学を学ぶ



# 一般製造業分野で生産技術者をめざす

自動車、航空機、鉄道車両関係を支えているものづくり技術はあらゆる産業に通じます。ものづくりに対する感性（センス）は実感教育科目としての交通システム実習Ⅰ・Ⅱ、設計力、設計事項の表現力および設計図の理解力等、ものづくり能力育成は具体的科目としての設計基礎科目として図学、製図、機械要素Ⅰ・Ⅱ、交通機工作で習得します。工程管理や品質管理は管理科学Ⅰ・Ⅱで、問題解決の育成には交通機設計で習得します。水上交通機械は船舶工学、軌道上交通機械は鉄道車両工学の科目で習得します。専門応用科目を習得した後に卒業研究を習得し、ものづくり一般企業の生産技術の開発・設計に貢献する職業をめざす学生のための履修モデルです。

交通機械工学科 履修モデル 乗り物を通して機械工学を学ぶ

